

一般質問発言通告書

発言順位 10 番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和2年11月25日

三島市議会議員 大房 正治 様

三島市議会議員 8 番 河野 月江



質問事項 1	だれひとり取り残されない防災めざし、福祉・防災連携の仕組みづくりを
具体的内容	東日本大震災では、亡くなった方の6割以上が60歳以上高齢者、また障がいのある方の死亡率は住民全体に比べ高かったと言われる。西日本豪雨（H30年）、台風19号（R元年）、7月豪雨（R2年）などでも、死者・行方不明者の6～8割を高齢者が占めていた。東日本大震災では、平時のノーマライゼーション施策を他県に比べ積極的に進めていた宮城県で、全体死亡率に対する障がいのある方の死亡率の格差が2倍近くにも達していたと言われる。排除のない平時の福祉環境づくりが、災害時の脆弱性をむしろ高めてしまった。悲劇を繰り返さないためには、平時の福祉環境づくりと災害時の要配慮者対応との連携連結が不可欠である。
	政府は、現在取り組まれている避難行動要支援者の個別支援計画づくりの遅れを解消するため、来年にも災害対策基本法の改正を準備し、同計画の法定計画への格上げ化や、市町村による作成の努力義務規定化とともに、福祉関係者との連携を進める方針を決めている。その先進例が、大分県別府市による、福祉・防災・地域をつないだ要支援者避難支援＝「別府モデル」である。三島市もこれに倣い、取り組みを始めることを求め、以下について伺う。
	1. 災害対策基本法（H25年改正）に基づく「避難行動要支援者名簿」作成の現状について
	2. 名簿情報の利用及び提供の現状について 3. 個別支援計画作成の現状について
	4 個別支援計画作成状況の評価、到達の要因について
	5. 当事者の参画のためにも仲介役（インクルージョン・マネージャー）と伴走者（ケアマネージャー）の関わる仕組みが必要と考えるがどうか
	6. 災害時ケアプラン作成など「インクルーシブ防災事業」の検討開始が必要ではないか
質問事項 2	米軍横田基地所属C-130輸送機の市内上空飛行訓練と市民の安全確保について
具体的内容	本年、立て続けに何人かの市民から、市内上空を低空で飛行する飛行機について、「あれは何か」「高度が低くて怖い」「長時間、ごう音が鳴り響いている」「子どもたちが怖がる」など、不安と心配の声が私のもとに寄せられている。機体の特徴から、米軍横田基地所属のC-130輸送機であると思われる。三島市は、9都県にわたる同輸送機7つの飛行ルートのうち、「FUJII」と呼ばれるルートに当たっている。同機は下田市や東伊豆町などでも山ぎりぎりの低空飛行訓練を行っており、2年前（平成30年12月19日）には、ロードマスターによるコンピュータ入力ミスにより、誤って裾野市内・富士裾野工業団地付近にパラシュートを落下させており、周辺住民に不安を与えている。
	市民の生命、財産、安全を守る問題として、市内上空のC-130輸送機飛行について、以下について伺う。
	1. 当市上空がC-130輸送機の飛行訓練ルートとなっていることを、市は認識していたか
	2. 市民からの問い合わせや苦情の状況はどうか、またそれにどう対応しているか
	3. 航空法では低空飛行の規制はどのようになっているか
	4. 住宅密集地での低空飛行は、住民生活を危険と不安にさらすものであり、三島市として抗議をするべきと考えるがどうか